

U.S. Indicators

米国 製造業部門は堅調持続(17年7月ISM製造業景気指数)

発表日：2017年8月1日（火）

～新規受注・生産が高い水準を維持し内容も良い～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治

03-5221-5001

ISM製造業景気指数の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
16/07	52.3	56.1	54.8	49.3	49.5	51.8	48.0	55.0	52.5	52.0
16/08	49.4	48.9	49.3	48.7	49.0	51.2	45.5	53.0	52.5	47.0
16/09	51.7	55.0	53.3	50.0	49.5	50.8	49.5	53.0	52.0	49.0
16/10	52.0	54.1	54.4	51.8	47.5	52.2	45.5	54.5	52.5	52.0
16/11	53.5	54.8	55.6	52.5	49.0	55.5	49.0	54.5	52.0	50.5
16/12	54.5	60.3	59.4	52.8	47.0	53.0	49.0	65.5	56.0	50.5
17/01	56.0	60.4	61.4	56.1	48.5	53.6	49.5	69.0	54.5	50.0
17/02	57.7	65.1	62.9	54.2	51.5	54.8	57.0	68.0	55.0	54.0
17/03	57.2	64.5	57.6	58.9	49.0	55.9	57.5	70.5	59.0	53.5
17/04	54.8	57.5	58.6	52.0	51.0	55.1	57.0	68.5	59.5	55.5
17/05	54.9	59.5	57.1	53.5	51.5	53.1	55.0	60.5	57.5	53.5
17/06	57.8	63.5	62.4	57.2	49.0	57.0	57.0	55.0	59.5	54.0
17/07	56.3	60.4	60.6	55.2	50.0	55.4	55.0	62.0	57.5	56.0

(出所) ISM: the Institute for Supply Management

製造業景気指数は56.3 と前月比1.5%ポイント低下

17年7月のISM製造業景気指数(季節調整値)は、56.3と前月比▲1.5%ポイント低下したものの、高い水準を維持しており、製造業部門の堅調さを示す水準となった(市場予想中央値56.4、筆者予想55.4)。ISM製造業景気指数は、ドル高の影響を受けながらも、国内需要の堅調さ、原油価格の上昇による石油掘削リグの稼働数の増加、世界的な需要の拡大等を背景に、米国製造業が堅調さを維持していることを示している。

総合指数を構成する項目では、在庫が上昇したが、新規受注、生産、雇用、入荷遅延が前月から低下した。新規受注は、前月から低下したものの内外需要の堅調さを映じて高い水準を維持しており、製造業部門が堅調さを当面維持することを示唆している。構成項目別の総合指数への寄与度をみると、在庫(前月比+0.20%p)が押し上げ寄与となった一方で、新規受注(前月比▲0.62%p)、雇用(前月比▲0.40%p)、生産(前月比▲0.36%p)、入荷遅延(前月比▲0.32%p)が押し下げ寄与となり、総合指数は前月比1.5%ポイント低下した。

総合(全18業種、下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す)で拡大した業種は、プラスチック・ゴム、電気設備・部品、木材製品、加工金属、一般機械、化学製品、紙製品、食品・飲料・タバコ、印刷・関連サポート活動、コンピューター・電子機器、非鉄、家具・同関連、その他製造業、一次金属、輸送機器の15業種となった。前月と変わらず、引き続き多くの業種で拡大しており、製造業の拡大が広がりを見せていることを示している。一方、縮小した業種は、アパレル、繊維、石油・石炭の3業種と前月と変わらなかった。

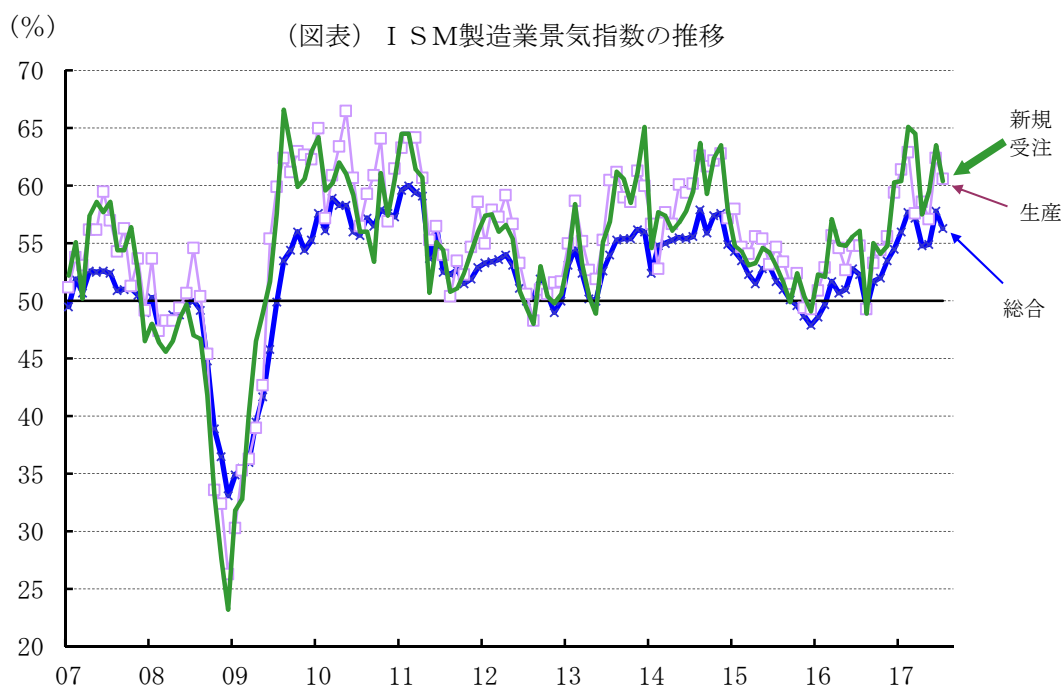
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

コンタクト先からの報告は、全般的に前向きな内容だった。化学製品では受注が強く、市況も同様に強いことから、第3四半期も好調が続くことを示していると指摘されたほか、食品・飲料・タバコでは売上がもっともよい年、需要が供給を上回っており、投資を増やしている企業があることが報告された。また、コンピューター・電子機器は大規模な販売量を抱え、受注残も高水準と指摘されたほか、非鉄では自社製品への強い需要を受け工場の稼働時間など生産管理に集中していると報告された。さらに、木材では海外受注が引き続き強いほか、国内事業は控えめにいっても十分安定していると報告された。一般機械は事業が安定していること、加工金属は07年以来初めて6ヵ月続けて収益が高かったこと、電気設備・部品では2018年に向けて受注は良いスタートとなっていること、プラスチック・ゴムは売上が過去数ヵ月拡大したが、来月は周期的にわずかに鈍化すること、等が指摘された。

輸送機器では恒常的に労働力不足となっており、サプライチェーンを通じてリードタイムを延ばすことにつながると報告された。

製造業景気指数はドル高の影響等により緩やかな拡大を示す水準で推移する公算

今後、雇用・所得の拡大等を背景に個人消費を中心とした国内需要の拡大が続くほか、世界経済の拡大が続くとみられる一方で、ドル実効レートが米国景気への楽観的な見方や緩やかなペースでの利上げ継続、米国への資金還流等の影響を受け、製造業が好調だった時と比較して高い水準に止まると予想される。このような中で、ISM製造業景気指数は、製造業の緩やかな拡大を示す水準で推移すると予想される。



(出所) ISMデータより当社加工

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。